

～ツツクモノ◆カワルコト～

仏のマスター

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

少女は見た。目の前に立つ蒼き輝きを放つ何かを……

少年は翔る。自身に課せられた使命を全うする為……

少女は瞳を輝かせ彼を見つめ、少年は汗を滲ませ彼女を見る。

そんな二人の出会いがこの物語の始まり。

タグは随時追加予定！

現状、次作の先行投稿で、作品紹介のみになります。

2019/7/7 仏のイチヤエロ作品集に裏話更新してます。

他作品投稿により一時更新停止中m(´`´)m

# 目次

第00話	作品紹介	1
第000話	作品紹介2	4

## 第00話 作品紹介

少女は見た。目の前に立つ蒼き輝きを放つ何かを……  
少年は翔る。自身に課せられた使命を全うする為……  
少女は瞳を輝かせ彼を見つめ、少年は汗を滲ませ彼女を見る。  
そんな二人の出会いがこの物語の始まり。

「と！　　いうわけで、始めました〜司会進行は天才東さんこと、私篠ノ之東と〜世界最強にして【私の嫁】こと——『誰がお前の嫁だ？』——フギャツ！　　イタイよ〜ちーちゃん!!」

千冬のアイアンクローが決まり、痛みに顔をゆがめる束。

「ふん……織斑千冬だ。さつさと続けろ」

「アイタタタ……ちーちゃんは容赦ないなくさてきて、更にもう一人！　　今作の主人公にして、わ……【私の（未来の）旦那様】……キヤツ☆——『おい。誰が旦那様だ？　馬鹿兔』——ギャン!?　　今度は後ろから!」

主人公のアイアンクローも決まり、再び痛みに顔をゆがめる束。

「はあ〜一応主人公らしい山田翔だ。馬鹿兔の世迷い言は無視してくれて構わない」

「アイタタタ……しよ〜くんの愛は痛いなあ——『フン!』——ガフツ!」

「さて、うるさいのが黙ったところで作品紹介に移るぞ千冬」

翔の放った掌打が束の鳩尾に決まり、束ダウン!

「そうだな。（まあ、いつも通りその内に起きてくるだろう）しかし、相変わらず束には容赦ないな」

「こいつに手加減無用なのは千冬も分かってるだろう?」

「まあな」

軽く説明すると三人は中学からの同級生で友人。翔は束程では無いがそこそこの頭脳、千冬程では無いがそこそこの戦闘力を持った普通の人はです。

「私からすれば十分、翔も人外枠なんだが……」

「いや、俺はまだ普通の人間枠のつもりだ」

「——つまり私たちは人外枠だと認めるのだな？」

覇気を強め指を鳴らしながら、翔へと近づく千冬。しかし、翔は動かない。

「えっ!? まさか認めてなかったのか!？」

「……………まあいい。というか本来の目的である作品紹介を全くしてないような気がするのだから？」

三人の関係性を記す意味では十分紹介になっていきますので問題ありません。

「ん？ 何か聞こえた様な気がしたが、気のせいかな」

「そういう事にしておけ」

「…………取りあえずは冒頭の文についてだな。これは【白騎士事件】における一幕だ。先に言っておくが、この少女はそこに転がっている馬鹿鬼ではない。前作の宣言通りの彼女が今作のメインヒロインだ」

「まさか翔が年下好みだったとはな…………ククク。てつきりなんだからだ束とくつつくものとはかり思っていたのだが…………ISもアレだし」  
ニヤニヤと笑いながら翔の方を見る千冬であったが、翔は相変わらず動かない。

「それはないだろう。むしろいつかまた葉盛って、既成事実だのされないか恐れているくらいだ…………あと、同じ千冬には言われたくない」

「な、なんの事だ!? ん?…………今『また』と言ったか？」

「…………未遂だ。深くは聞くな」

「…………お前も苦労しているんだな」

お互い思うところがあるのかそれ以上はツッコまなかった二人。この辺は話しが進むにつれて分かってくると思います。

ここで更に補足させて頂くと、今作は前作のパラレルワールドでもあります。(読まれる上で前作知識は別に必要無いです) 要は千冬の想い人は前作主人公になります。作中には名前くらいしか出す予定はありませんしISは操縦出来ません。

「——って! そんなこんな言ってる間にもうタイムリミットが近い

ぞ！」

「読者の皆様、大した紹介も出来ずすまない」

「だくかくらう束さんが司会進行するって言ったのにくく!!」

「あ、復活した」

「というわけで、インフィニット・ストラトス〔くツツクモノ◆カワル

コト〕Coming Soonだ！」

「お楽しみにくく」

「え？ もう終わり!? 束さんの出番がああああ!!」

はい。カットオウ！ ありがとうございますくく

【山田翔】

今作の主人公で、年齢は千冬や東と同じ年になります。あと名字で気づいた方もいると思いますが、山田真耶の兄でもあります。やまやは妹☆

ある事件がキツカケでIS学園に入学する事になります……生徒として（笑）

能力としては本人曰く「束程では無いがそここの頭脳と技術、千冬程では無いがそここの戦闘力を持った普通の人だ」との事です。

「まだ人外枠になった覚えはない！」とも。

真耶同様に童顔で、実年齢より若く見られがち。正直IS学園の制服姿も……「アツ？」……いえ、なんでもありません。

あまり書くとネタバレになるので、この辺にしときます！ あと数話で本編完結の前作終了後、こちらにも投稿していきますのでよろしく願います。

## 第000話 作品紹介2

「結局のところまだ新作アップされないわけ？」

「来年頭と言ってたが、どうやらだいぶ先になりそうだな」

色々あり結局ほとんど後に後になっていく日々……

「けど前の二つはやっと完結したわけだし、そろそろ私としょーくんのラブストーリーが始まるんじゃないかと！」

「ダレとダレのだった？ アア？」

額に怒りマークを浮かべ睨む翔に対し、東は当たり前の如く叫ぶ。

「どこの泥棒猫か知らないけど、私としょーくんの間に入る隙間なんて与えないんだからね!!」

東の背中から黒いオーラが立ち上がり始め……見かねた千冬が止めに入る。

「東……それくらいにしておけ」

「だって！ ちーちゃん!!」

「俺はヤンデレ、ストーカー女は嫌いだ」

「……………」

「おい、翔。そんなバツサリ言い切らなくても……」

さすがに言い過ぎだと思つた千冬が翔に言うが……

「千冬——良く考えてみる。ただでさえ、認識する身内をわざわざ衛星まで使つて、盗撮盗聴するこいつが自分にヤンデレストーカーになった姿を想像してみろ」

「……すまん。本気で想像できてしまつて、私も凄い嫌悪感を覚えてしまった……」「ちーちゃんまで!？」

青ざめた顔になる千冬を見ながら、翔は言葉を続ける。

「内面はともあれ、東は外見は凄く綺麗で、可愛いし、スタイルも良くて、ほぼ100点に近いと言つてもいいんだから、ちよつと落ち着いて性格直せば、引く手数多だと思うんだがな？ 現にお前のファンだとか、紹介してくれて話しは過去何度も合つたし………俺だつて……ゲフンゲフン」

「そんな有象無象じゃなくて、私はしょーくんが良いの!——つて、そ

んなべた褒めして私を口説いてる？　もう告白と取っても良いのかな、かな？」

「すまん。無理だ」

「……………（束はある意味、自分で自分のチャンスを潰してしまったのか……………私はそうはならないぞー）」

そんなこんなで生存確認ならぬ継続確認も含めた先行投稿でございます。

こんな感じで束が、チョコチョコちよっかいを掛けてくるかもしれないませんが、翔と○がハッピーエンドを迎えられる作品になるはず！  
なので、本編アップまで暫くお待ち下さい（>）（<）

「逆転エンドも有りだよね★」

「知らんわ！」

「……………逆転エンド……………そんなの許さない」「——って、○！　いつの間にも!？」

「遅いから私も覗きに来た」

「出たな！　泥棒猫!!」

「あなたは既に振られたんでしよう？　未練がましいのは良くないと思う」

バチバチと火花を散らせながら睨み合う二人。

「……………オイ、翔。開始前からヒロイン候補がバチバチだが良いのか？」

「……………あの間に俺に入って逝けと？」

コクリと頭を下げる千冬……………溜め息を吐きながら、二人の間に入っていく翔……………うん。これラブコメ小説の予定だよね？

そんな事を思いながら執筆活動に励む私でした。さよならさよならさよなら

「——って、ここで終わりかい!!!」

尚、この先行投稿は本編開始とともに消滅致します★